

參謀次長

對敵交渉經過

配布先

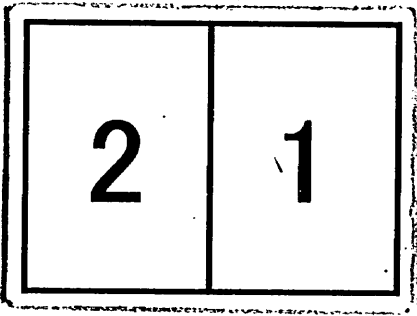
軍務課

課長	局長	次官	大臣
	第三部長	第一部長	參謀總長
	第二部長	參謀次長	
	第三部長	總務課長	

(其三)

0908

分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	対敵交渉経過一覧
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

事項

番號	月日	事項
48	八二三	政府發第二六號 （日本船周波數照會ノ件）
49		大本營發第二七號 （滿洲方面帝國軍武裝解除ノ件）
50		政府發第二八號 （伊用通貨照會ノ件）
51	八二四	第二九號 （要求事項中ノ時間照會ノ件）
52		第三〇號 （滬日記者團數等照會ノ件）
53		第三一號 （臨風ノ爲先遣隊進駐準備遲延ノ件）
54		大本營發第三二號 （北海道近海ノ攻撃停止要請ノ件）
55		第三三號 （戰艦行動停止狀況ノ件）
56		政府發第三四號 （南島島補給實施細目ノ件）
57		大本營發第三五號 （降伏文書及一般命令疑義ノ件）
58		第三六號 （軍隊撤退狀況ノ件）
59		政府發第三七號 （支那一部ニW標示遲延ノ件）
60		大本營發第三八號 （厚木飛行地上滑走困難ノ件）
61		政府發第三九號 （日本新聞記者許容ノ件）
62		大本營發第四〇號 （秩序アル進駐實施希望ノ件）
63	八二五	「マ」司令部發五五三號 （連絡飛行機行動制限ノ件）
64		五五四號 （第二六號返一週波數ノ件）
65		五五四七號 （通信施設準備ノ件）
66		五五四八號 （在香港日本軍ノ英海軍ハ降伏ノ件）
67		五五五〇號 （要索事項文書中ノ時刻ノ件）
68		五五五六號 （第三九號返一新聞記者ノ件回答）
69		五五五九號 （日暮四十八時間遲延ノ件）
70		大本營發第四一號 （連絡飛行機識別ノ件）
71		第四二號 （久里濱演習工作學校事故ノ件）
72	八二四	第四三號 （帝國海軍艦ニ關スル件）
73	八二五	第四四號 （大日本帝國ニ於ケル個別的武器引渡實施法）
74		第四五號 （厚木飛行場安導保障ノ件）
75		政府發第四六號 （百噸未満商船ノ南方地域適用照會ノ件）
76		大本營發第四七號 （鹿屋飛行場ハ連絡機派遣ノ件）
77		第四八號 （鹿屋駐兵力等照會ノ件）
78		第四九號 （東京ノ新京間通信施設利用ノ件）
79		第五〇號 （四十八時間延期電了承ノ件）
80	八二六	「マ」司令部發第二一號 （第一二號返一南島島糧食補給承認ノ件）
81		（第三五號返一降伏文書及一般命令中疑義回答ノ件）
82		第三號 （指模渡進入ノ海軍ニ安全保障ノ件）
83		第四號 （降伏區分ニ關スル件）
84		第六號 （第六四號返一巨噸未満船ニ關スル件）
85		第七號 （鹿屋ノ飛行承認ノ件）
86		第八號 （敵艦維持機命令ノ件）
87		政府發第五一號 （在支那人引揚ニ日本船四隻使用ノ件）

100	100	100	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	
						八二八					八二七											八二六								八二五	八二四									
政府發第六五號	大本營發第六四號	政府發第六三號	政府大本營發第六二號	第一〇二號	「マ」司令部發第九號	第一〇一號	大本營發第六〇號	第五九號	第五八號	政府發第五七號	大本營發第五六號	第五五號	第五四號	政府發第五三號	大本營發第五二號	政府發第五一號	第八號	第七號	第六號	第四號	第三號	(第三五號返一降伏文書及一般命令中屢獲回答ノ件)	「マ」司令部發第二號	第五〇號	第四九號	第四八號	大本營發第四七號	政府發第四六號	第四五號	第四四號	第四三號	第四二號	大本營發第四一號	五五五九號	五五五六號	五五五〇號	五五四八號	五五四七號		
(北鮮ノ治安ニ關スル件)	(鞍山飛行場準備會ノ件)	(日本通貨使用再要請ノ件)	(軍需物資開闢要領ノ件)	(朝鮮連絡船許可ノ件)	(橫濱及館山上陸ノ件)	(地境及交渉當事者ノ件)	(厚木飛行場安導ノ件)	(日程四十八時間延期ノ件)	(內鮮間鐵道連絡船再開ノ件)	(連絡中央事務局設置ノ件)	(陸軍連絡機標識ノ件)	(誘導艦所在位置ノ件)	(鹿屋飛行場延延ノ件)	(誘導艦行動ニ關スル件)	(在支邦人引揚ニ關スル件)	(誘導艦待機命令ノ件)	(鹿屋飛行場延延ノ件)	(第六四號返一自願未滿船ニ關スル件)	(降伏區分ニ關スル件)	(捕獲遺棄入海軍ニ安全保障ノ件)	(第三五號返一降伏文書及一般命令中屢獲回答ノ件)	(第四二號返一南島島民食糧給付承認ノ件)	(四十八時間延期電了承ノ件)	(東京ノ新軍閥通信施設利用ノ件)	(鹿屋飛行場安導保障ノ件)	(百兩米商船ノ南方地域適用照會ノ件)	(厚木飛行場安導保障ノ件)	(帝國海軍ニ關スル件)	(八里濱海軍工作學校事故ノ件)	(連絡飛行機識別ノ件)	(日輝四十八時間延期ノ件)	(第三九號返一新聞記者ノ件回答)	(要領事項文書中ノ時刻ノ件)	(在香港日本軍ノ英海軍ノ降伏ノ件)	(通信施設準備ノ件)					

48

日本政府發最高司令部宛電報

昭和二〇 八 二四
軍務課 印刷

第二六號（八月二三日）

要求事項「ドキニメント」三・dノ前半ニ關シ日本船ヨリNQOニ對
スル受信用周波數ハ三二三五、八四七〇、一二七〇五、一六九四〇K
OSノ中何レカーヲ使用スヘク要請セラレアルモノト諒解スル處日本
船ハ右周波數ニヨル送信裝置ヲ有セス
依テ日本船ヨリNQOニ對スル受信ハ五五二〇、六二一〇、八二八〇
、一二四二〇KOSノ何レカーニヨルコトト致慶諒承乞フ
大至急回電乞フ

0911

49



大本營ヨリ聯合軍最高司令部宛電報

昭二〇
務八
課八
印二
刷四

滿洲方面帝國軍武裝解除ニ關スル件

大本營電第二七號（八月二十三日）

滿洲蒙疆北鮮ニ於テハ各方面逐次武裝解除ヲ實施シツツアルモ一部ニ於テ日本軍及邦人ニ對スル無法ナル發砲、掠奪、暴行、強姦等目ニ余ル行爲頻發シ逐次治安維持不良トナリ收拾不可能ナル事態惹起ノ徵歴然タリ斯クノ如ク日本軍カ誠意ヲ以テ忠實ニ貴軍司令部ノ要請ニ應セントスルモ事態ノ推移ハ樂觀ヲ許ササルモノアルニ付之等治安不良ノ地區ニ於テハ邦人ヲ安全ナル地區ニ退避セシムル迄所要ノ武器ヲ保持スルコトヲ許容セラレ度コトヲ望ム

0912

秘

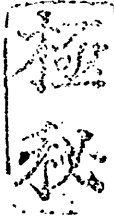
日本政府發「マツクアーサー」司令部宛電報

昭和二年八月二日
軍務課印刷

第二八號（八月二十三日）

日本政府ハ占領區カ日本ニ於テ如何ナル通貨ヲ使用セラルルヤニ付選
定ヲ得ハ幸ナリ。茲方ハ此點ニ關シ占領區ニ於テ日本銀行券ヲ使用セ
ラレムコトヲ希望スルモノニシテ之カ爲厚木、横濱及横須賀ニ於テ右通貨引
渡ノ要求ニ應スルノ用意アリ

0913



帝國政府發聯合國最高司令官宛電報

昭二
軍務課印刷

第二十九號（八月二十四日）

八月二十日「マニラ」ニ於テ日本國代表ニ手交セラレタル貴方要求事項中ニ指示セラレ居ル時間ハ日本時間ト瞭解シ差支ヘナキヤ貴見承知致シ度

（發電済）

0914

52
極秘

帝國政府發聯合國最高司令官宛電報

昭二〇 八 二五
軍務課印刷

第三十號（八月二十四日）

帝國政府ハ聯合國新聞記者團ニ對シ事情ノ許ス限り便宜ヲ供與セン事
ヲ切望ス仍テ八月三十一日迄乃至ハ近キ將來ニ渡リテ豫想セラルル記
者團數竝ニ記者團ノ特殊要求事項通報方御願ヒ致シ度

（發電済）

0915

53

極秘

第三十一號（八月二十四日）

日本政府發聯合國最高司令部宛電報

昭二
務〇
課八
印二
刷五

日本政府ハ八月二十二日夕刻ヨリ二十三日朝ニ亘ル七百四十耗ノ強烈ナル颱風ノ爲關東地方ニ於ケル通信輸送機關ニ相當ノ損害アリ貴司令部ノ要求ニナル先遣隊ノ進駐準備ハ我々ノ最善ノ努力ニモ拘ラス若干ノ困難ニ遭遇シツツアル事ヲ報告スル必要ヲ感シ居レリ

0916



大本營發聯合國最高司令官宛電報

昭二〇
軍務課ハ
印二七

第三十二號（八月二十四日）

帝國大本營ハ北海道近海ニ於テ依然日本船舶ニ對シ攻撃行ハレツツ
アルコトニ關シ貴司令官ノ注意ヲ喚起セント欲ス。責任アル當局ニ
對シ直ニ斯ル攻撃停止方指令セラルル様切ニ希望ス。斯ル攻撃ヲ行
ヒツツアル潜水艦ハ悉ク蘇聯邦所屬ノモノト推定セラルル處右潛
水艦ハ現場ニアル日本船ヨリノ信號ニモ應答シ居ラス。右ハ司令塔
前面ニ八糶米砲一門ヲ有スル約六百噸ノ一小型艦ナリ。
最近ノ事件次ノ如シ

一、泰東丸ハ八月二二日〇五一〇時頃北海道西岸留萌附近ノ焼尻島
ノ近クニ於テ一潜水艦ニヨリ砲撃ヲ受ケ次テ同日一三〇〇時頃留
萌六哩沖合ニ於テ魚雷ヲ受ケ沈没シ死傷者五五三名ヲ出セリ。

二、大東丸第四十九號ハ八月二二日〇九五七時頃北海道「オホツ」
沿岸網走沖即チ北緯四四度〇五東經一四四度二八ノ地點ニ於テ砲

0917

還ヲ受ケ沈没セリ。

3. 鐵洋丸ハ八月二十二日西能登呂岬附近ニテ魚雷ヲ受ケタリ。
4. 一遜送船ハ同日宗谷海峡ノ奥中ニテ沈没セリ。

0918

極秘

大本營發「マツカーサー」司令部宛電報

昭和二〇 六 二五
軍務課 印刷

大本營電第三三號（八月二十四日）

天皇陛下ハ既ニ一切ノ戦闘行動ノ停止ヲ命令セラレタリ

滿洲及樺太其ノ他直接聯合國軍ト接觸シアル方面ニ對シテハ右戦闘
停止ノ日時ヲ待ツコトナク現地ニ於テ交渉成立シ次第直ニ戦闘ヲ停
止スル如ク命令セラレタリ

以上ノ命令ハ各方面ニ於ケル司令官ノ非常ナル努力ニヨリ通信不通
ノ部隊以外ニハ悉ク徹底シ概ネ整々タル戦闘行為ノ停止ヲ見ツツア
リテ八月二十三日正午大本營ニ於テ確認セル戦闘停止ノ状況左ノ如

0919

シ
1. 本州、四國、九州

二十二日零時以降一切ノ戦闘ヲ停止シアリ

2. 千島方面

概ネ戦闘ヲ停止シ守備隊ヘ武装ヲ解ケリ

3. 樺太方面

北樺太方面ハ幾多ノ接衝ヲ經タル後十八日頃概ネ戦闘ヲ停止シ

爾後平穩ナルモ「ソ」軍ハ更ニ真岡方面ニ攻撃シ來リ住民保護

等ノ爲局地戦ヲ惹起シアリシカ一應二十二日頃現地ニ於ケル停

戦協定成立セリ

4. 宗谷海峡二十二日以來「ソ」聯潜水艦出現停戦中ノ我方艦艇ヲ

砲撃被害數隻アリ信號ニ努ムルモ潛水艦之ニ應セス

5. 滿州及北鮮方面

二十二日現在各方面ニ於ケル停戰及武裝解除ハ大部終了セリ

一兩日中ニ旅順、大連及北鮮地區ノ武裝解除ヲ見ル豫定

6. 支那方面

日本軍ニ對スル戰鬪行動停止命令ハ十七日乃至二十一日迄ノ間

ニ於テ逐次未稍部隊ニ徹底セルモ中國軍ノ停戰意圖不徹底ナル

爲二十二日尙戰鬪ヲ惹起シアル地點左ノ如シ

(イ) 衡州及祁陽附近ニ若干

(ロ) 濟南周邊ニ於ケル延安及重慶軍ノ策動活潑ニシテ或ハ局

ノ戰鬪ヲ惹起スルノ虞アリ

(ハ)張家口北方ニ於テハ軍使ヲ派遣シ停戦方努力中ナルモ軍使ヲ
退却セラルルノミナラス依然外蒙ハソノ軍ノ攻めを受け
リ

(ニ)南京、上海、杭州地區ニ於テハ治安刻々悪化シ鐵道ノ破壊難
軍ノ來攻撃等ノ爲治安維持ノ爲所々自衛戦闘ヲ惹起中ナリ

7. 南方軍方面

一般ニ戦闘ヲ停止シアルモ「ビルマ」ニ於テ「シツタン」河右
岸ニ在ル部隊及「ボルネオ」所在部隊ニ對シテハ未タ通信杜絶
ノ状態ニ在リテ戦闘停止命令不徹底ノ虞アリ

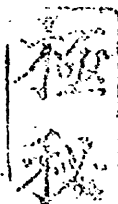
8. 其ノ他

一般ニ戦闘ヲ停止シアルモ「ニューギニア」ノ一部等ニ於テ通
信杜絶ノ所アリ

以上ノ如ク戦闘行爲ノ停止ハ大勢上ハ順調ニ進捗シアルモ大陸ニ於
ケル聯合軍一部ノ不法攻撃ノ爲ニ局部的ニハ尙戦闘状態ヲ繼續シア
ル地點アリ

0923

56



日本政府發聯合軍最高司令官宛電報

昭ニマヘニセ

軍務課印刷

第三十四號

八月二十三日附日本政府發電報第二二號關聯南島島補給實施細目左
通り

一 使用艦

第十六號輸送艦

(1) 排水量一二〇〇噸二橋一本煙突、驅逐艦型

(2) 爆發物ハ全部除去シ銃砲ハ撤去若クハ使用不能ノ狀態ニアラシム

(3) 標識ハ艦橋兩舷ニ綠十字章ヲ附スル外日本國旗ヲ掲揚ス夜間ハ

ニ正規ノ航海諸灯ヲ點ス

ニ 行動豫定

八月二十五日一六〇〇橫須賀發 南島島ヘ直行

八月二十八日〇六〇〇南島島着

八月二十九日一六〇〇南島島發 東京ヘ直行

九月一日〇八〇〇東京着

0924

57

極秘

大本營發聯合國最高司令官宛電報

謄二〇
章務
誤印
刷五

第三十五號（八月二十四日）

一降伏文書ニ付テ

(一) 6. / Supreme Commanders / Supreme Commander ニ非スヤ

(二) 6. / by and other / by any other ニ非スヤ

一軍命令第一號（陸海軍關係）ニ付テ

(一) 1. (e) / 冒頭ノ「to」ハ誤リテ挿入サレタルモノニ非スヤ

(二) IX. (a) / to include / 間ニハ脱語ナキヤ

0925

極秘

大本營發聯合軍最高司令官宛電報

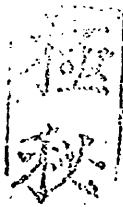
昭和二〇 八 二五
軍務課 印刷

第三十六號（八月二十四日）

一、關東地方ニ於ケル第一次撤退地域及廬屋附近竝ニ鹿兒島灣兩側地域ノ
軍側ニ對シ期限ヲ附シテ撤退ヲ終ル如ク命シアルモ二十二日夜ニ於ケ
ル關東地方颱風ノ爲鐵道道路ニ損害ヲ受ケ軍隊ノ移動遲滯シアリ
然レトモ貴方ノ要求事項（「マニラ」ニ於テ日本代表ニ手交セルモノ
第三號ノ三ニ示ス時刻迄ニハ軍隊ノ撤退ヲ確實ニ終了スルモノト認メ
アリ

二、右第一次撤退地域内ニハ治安維持ノ爲ノ警察官及憲兵、海軍保安隊竝
ニ撤退部隊ノ殘置セル軍需品ノ監守ノ爲ノ非武裝兵ヲ殘留シアリ
三、在本土帝國陸海軍部隊ハ逐次復員スル如ク措置シアリ

0926



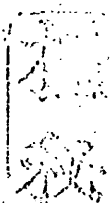
帝國政府發聯合國最高司令部宛電報

第三十七號（八月二十四日）

昭二〇 八 二七
軍務課 印刷

本月二十二日ノ颱風ニ因リ支那トノ通信用ノ無線施設故障ヲ生シタ
リ。目下他ノ方法ニ依ル連絡ヲ試ミ居ルカ支那ノ一部ニ於テハ聯合
國抑留者ノ收容所ニ附セラルヘキ 消息ノ表示力遲延スルコトアル
ヘシ。

0927



大本營發聯合軍最高司令官宛電報

昭和三十四年
軍務課印刷

第三十八號

厚木飛行場ハ二十二日夕刻ヨリノ降羽ニ依リ現在ノ所滑走路ニ對ス
ル及發爆機又ハ及發輪送機ノ着陸可能ナルモ滑走路（Paved）以外
ノ飛行場内ハ車輪メリ込ミ地上滑走困難ナリ爲念

0928

極秘

日本政府發聯合國最高司令官宛電報

昭二〇、八、二八
軍務課印刷

第三十九號

日本政府ハ厚木飛行場地域、横須賀海軍基地鹿屋地域ニ於ケル聯合
國軍ノ上陸時ニ際シ、並ビニ八月三十一日ニオケル合衆國戰艦上ノ
降服式ニ際シ日本側ノ新聞記者、新聞寫眞班及ビ新聞カメラ班
ノ入場ヲ聯合國最高司令部カ許容セラルル意向ナルヤ否ヤニ關シ可
及的速カニ通報ニ接スル事ヲ希望ス前記記者ノ數ハ鹿屋ニ於テハ約
三五名他ノ地域ニ於テハ約四十名ナルコトヲ期待ス

0929



大本營發聯合國最高司令部宛電報

昭和四
軍務課印刷

第四十號

莫新科放送ニ依レバ蘇聯ハ空軍部隊ヲ北海道ニ降下セシメントスル
ノ報アリ、現在、日本政府ニ於テハ軍隊及國民ニ對シ嚴重ナル統制
ノ下、貴方ノ要求ニ應ズ可ク最善ノ努力ヲ備ヘツツアル處右蘇聯ノ
放送ガ事實ナリトセバ甚ダ遺憾ニシテ聯合國最高指揮官ニ於テ各國
ノ軍隊ヲ統制シ貴司令部ノ提案廻リ秩序アル進駐ヲ實施セシメラレ
ン事ヲ切望ス

0930

軍事機密

電報 報 乙五三

聯合國最高指揮官 發

日本大本營 宛

緊急八月二十日附 本司令部發 降伏要求履行
上赤色吹流シ標識ヲ附シ非武裝航空機使用許可

電參照

日本航空機が不意又ハ何等豫告ナク米國艦隊近
邊ニ出現シタル場合生ズルトアレバキ事故ヲ回避スルメ本件
ニ關シ更ニ左ノ如ク指示ス

八月十五日日本航空機ハ東部日本海岸ヨリ二哩以上ノ
上又ハ伊勢灣ノ駿河灣相模灣ノ北端ヲ結ブ線以南ヲ飛
行スルヲ得ス

(裏)

0931

日本航空機ハ北緯
 度以南東經一三八度以東四分圓地域内飛行
 タルヲ得
 總テ有資格日本飛行士對シ遲滞シ左ノ事項ヲ整
 スルニ即チ
 日本飛行機ハ何ノ場所ヲ問ハズ米國機ニ依リ追尾
 シ又脅威的ト看做サルカ如ク行動ハ切之ヲ要セ
 ルベキコト

0932



聯合國最高司令官發日本帝國政府宛

昭和ニ
軍務課 印 刷

五四四號（八月二十五日）

貴電二六號ニ關聯（

日本船舶へ前ニ最高司令官ノ東京中ニ詳記セル周波數四二三五、八
四七〇・一二七〇五、一六九四〇「キロサイクル」ノ代リニ、五五
二〇・六二一〇・八二八〇・一二四二〇「キロサイクル」ノ使用ヲ
許可サルヘシ

0933

電

報 (五四七)

昭二〇 八 二五

八月二五日 一三四五參本受付

聯合國最高司令官

日本帝國政府 宛

八月二十六日聯合國最高司令官代表カ其ノ先遣隊ト共ニ到着スル際ハ
要求第三號別紙Aニ含マレ居ラサリシ有線及無線通信施設準備ニ關ス
ル訓令受領ノ爲適當ナル官憲ノ出頭ヲ希望ス
特ニ必要トスル施設ハ

(イ) 聯合軍最高司令官ト東京地域内ノ其ノ幕僚日本政府及日本大本營間
ノ有線電話並ニ有線電話施設

(ロ) 聯合國最高司令官本部ト國際「ラヂオ」及電信並ニ日本政府及其ノ
隸下機關ノ無線電話及放送施設トヲ直結セシメ得ヘキ有線同路施設
以上ノ諸施設ハ聯合國最高司令官本部ヨリ要求アリタル時ハ前記諸機
能ヲ直チニ發揮シ得ルヲ要ス

(終)

0934



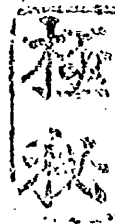
聯合國最高司令官發日本大本營宛

昭和二三
軍務課
ハニ
印
五
刷

五四八號（八月二十五日）

在香港日本軍へ八月三十一日以後英海軍「ハーコート」少將ヨリ、
直接ノ取極メニ從ヒ同少將ニ降服スヘシ

0935



聯合國最高司令官 日本政府宛

昭和ニ、ハ、ニ、五
軍務課 印刷

五五〇號（八月二十五日）

八月二十日 貴電二九號返

「マニラ」ニ於テ八月二十日貴代表ニ交附セシ文書中ニ示シタル時
間ハ「グリニチ標準時「プラス」九時間ナリ

0936

秘

聯合國最高司令官發日本政府宛八月二十五日來電

昭三〇 八 二五
軍務課印刷

新聞記者ニ關スル回答

貴電第三十九號ニ關シテハ、聯合軍ノ厚木飛行場、横須賀軍港及鹿屋地域ヘノ上陸ニ際シ各地域ニ夫々新聞記者、寫眞班員及撮影班員計十名ヲ越エサル範圍ニ於テ許可ス。尙降伏調印式ニハ新聞記者（複數）、寫眞班員一名、撮影班員一名ノ入場ヲ許可ス。降伏調印式ニ於ケル列席ニ付テハ八月二十八日厚木飛行場ニ到着スル當方ノ連絡將校ト協議スルモノトス

本要求ハ日本人ニ報道スル目的ヲ以テ日本語ニヨリ行ハルモノト了解ス

本件ハ之ニ依リ得ラレタル資料カ日本語ニヨリ、日本本土ニ於テノミ公表サルルトノ條件ノ下ニ許可セララルモノニシテ如何ナル國語ニヨルモ海外放送又ハ電報發電ヲ行ハサルコトヲ希望ス

0937

69

第
五
五
九
號

事
極
秘

詔 和 二
二
八
二
六

至急報
聯合國最高指揮官ヨリ東京大本營宛
乙五五九號

一九四五年八月二十日マニラニ於テ日本
代表ニ提示セラレタル聯合國最高指揮官
要求書類關聯

天候上該書類ニ示サレタル全日時ハ八月
二十六日當日及爾後四十八時間延期セラ
ル
(終)

0938

70
極秘

大本營發聯合國最高司令部宛電報

昭二〇、八、二五
軍務課印刷

第四一號（八月二十五日）

降伏條項履行ニ關シ緊急不得已場合使用スル飛行機ノ識別左ノ通り

(1) 使用機種零式輸送機一式陸上攻撃機白菊練習機（以上海軍、陸軍

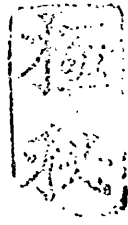
使用機ニ關シテハ追テ通知ス）

(2) 使用機ニハ五〇〇米ヨリ容易ニ視認シ得ル如キ赤色吹流ヲ曳航ス

ル他機体全部ヲ白色ニ塗り且ツ胴体ノ兩側及翼ノ上面兩側ニ綠色

ノ十字ヲ附ス

0939



大本營發聯合國最高司令部宛電報

昭二〇 八二五
軍務課印刷

第四二號（八月二五日）

本日午前久里濱海軍工作學校ニ於テ彈藥格納中不注意ニヨリ之レヲ
収リ落シ爆發火災ヲ生ス目下消火ニ努メツツアリ

0940

極秘

大本營發「マツクアーサー」司令部宛電報

昭和二〇 八 二五
軍務課印刷

第四三號（昭和二〇、八、二四）

帝國潛水艦ニ関スル件

行動中ノ帝國潛水艦ハ三隻ニシテ八月二十四日十八時ノ位置「イ」號
第一四潛水艦北緯二五度東經一五二度「イ」號第四〇〇潛水艦北緯二
三度三〇分東經一五一度三〇分「イ」號第四〇一號潛水艦ハ小笠原諸
島東方海面ヲ行動中ニシテ再三打電連絡ニ努メツツアルモ何ラ應答ナ
ク詳細不明ニシテ或ハ沈没セルヤモ知レズ各潛水艦トモ貴要望通り水
上航行ニテ漂識ヲ掲ゲ夜間ハ點燈スルコトヲ命ジ其ノ位置ヲ勘考シ不
測ノ事故防止ノ爲大湊ニ歸投ヲ命ジアリ「イ」號第四〇一潛水艦ニ關
シテハ判明次第更ニ報告スベキモ貴方ニ於テモ依然注意サレタシ

0941

極秘

大本營ヨリ「マツカーサー」司令部宛電報

昭和ニ
軍務課 印 刷

大本營發第四四號（八月二十五日）

大陸方面帝國軍第一線部隊ノ狀況ハ甚タ錯雜シ特異ナル狀況ヲ呈シ
アルヲ以テ帝國軍ノ降伏及武器ノ交付ハ夫々當面スル現地聯合軍指
揮官ニ對シ之ヲ行フロトアルベキニ付了承アリ度

0942

74

極秘

大本營發聯合軍最高司令官宛電報

第四十五號（昭和二〇、八、二五）

貴要求第三號第三項ニ係ル安導ニ關シテハ我方往電第三八號ニ依ル通
報事項以外之ヲ保障ス鋪裝滑走路ハ中央附近ノ吹流ヲ以テ之ヲ標示ス

昭二〇 八 二五
軍務課印刷

0943

極秘

日本政府發聯合國最高司令部宛電報

昭二〇 八 二七
軍務課 印刷

第四六號（八月二十五日）

貴方要求事項第三號一ノイニ於テ民需補給ニ從事中ナル總噸數百噸
未滿ノ商船ニ關シテ甲述ヘラレ居ル事項ハ支那、佛印、馬來、爪哇
等ノ沿岸水域ニ於ケル同種商船ニモ適用アリト解シ差支ナキヤ

昭和二十一年八月二十五日

日本政府發聯合國最高司令部宛電報

昭二〇 八 二七
軍務課 印刷

0944

26
報

大本營聯合國最高司令官宛電報

昭二〇、八、二六
軍務課印刷

第四七號（八月二十五日）

南九州鹿屋飛行場地域へノ第一次占領部隊ノ進駐ニ對スル準備並ニ進駐後ノ占領部隊トノ連絡ノ爲東京方面ヨリ所要ノ人員ヲ鹿屋ニ派遣シ度キ處目下鐵道ノ運行ハ撤退軍人輸送ノ爲繁忙ヲ極メアリテ系統的運轉ヲ期シ得サル狀態ニアルヲ以テ鐵道旅行ニ依レバ所要ノ時期ニ鹿屋ニ到着シ得サル惧レ大ナリ、依ツテ八月二十五日貴方指示飛行禁止區域ナルニ拘ラズ左記ニ依リ飛行實施致シ度キ處御諒承相成度

一、使用機「ダグラスD・O・13」一機、所定ノ「マーク」ヲ附ス

二、行動「八月二十七日午前八時横須賀發八時二〇分調布着九時 調布發途中大阪、大分經由一三時三〇分頃鹿屋着ノ豫定

（了）

0945

極秘

大本營發聯合國最高司令官宛電報

昭和二〇 八 二六
軍務課印刷

第四十八號（八月二十五日）

一、一九四五年八月二十日比律賓諸島「マニラ」ニ於テ日本國代表ニ手交
セラレタル聯合國最高司令官要求事項第三號別紙甲兵站ニ關スル要求
事項中第三項ノ「ロ」ニ於テ供給ヲ命セラレタル整備及作業用品中破
損飛行機用起重機（二〇トン）及路上清掃器（動力化）ハ我方ニ無キ
ヲ以テ御了承ヲ得タシ

ニ、鹿野方面諸準備ノ爲同方面進駐ニ付豫メ左記知ラサレタシ

(イ) 進駐兵力（員數）

(ロ) 準備スヘキ車輛ノ我方ニ於テモ逼迫シアル狀況ナル處最小限所要數

0946

78
極秘

大本營發聯合國最高司令官宛電報

昭和二〇 八 二六
軍務課 印刷

第四九號（八月二十五日）

蘇聯軍新京進駐以來新京東京間通信聯絡杜絶シ居レルカ降伏條件ノ正確
迅速ナル履行竝ニ其ノ成果ノ確認等ノ爲必要ニ付右通信施設ヲ猶當分ノ
間使用セシメラルル様蘇聯軍當局ニ指令セラレンコトヲ要請ス

0947

77.

大本營發聯合國最高司令官宛電報

昭二〇
勝八
謀印
二七
刷

第五〇號（八月二十五日）

天候ノ爲一九四五年八月二十日「マニラ」ニ於テ日本國代表ニ提示
セラレタル「聯合國最高司令官要求」中ニ於テ八月二十六日及其ノ
後ニ定メラレタル全日程ハ四十八時間延期セラルヘシトノ八月二十
五日至急電了承ヌ

0948

軍事極秘

昭和二〇・八・二六

聯合國最高司令官發

日本大本營及日本政府宛

第一一號（八月二十六日）（五二〇受）

南島島二關（八月二十三日）貴電第二二號（乙五七〇號）

ハ承認ス

註第二二號內容左ノ如シ

南島島ハ八月二十六日ヲ以テ糧食全ク盡キル狀況ナリ
ニ付輸送艦一隻ヲ派遣 糧食補給並ニ傷病者
還送ヲ實施致シ度
行動豫定 標識等追テ通報ス

0949

80

第1種

軍事極秘

聯合國最高司令官發

日本大本營及日本政府宛

第一一號（八月二十六日〇五二〇受）

南島島二關（八月二十三日貴電第二三號（乙五七〇號）

ハ承認ス

註第二三號內容左ノ如シ

南島島ハ八月二十六日ヲ以テ糧食全ク盡キル狀況ナルニ付輸送艦一隻ヲ派遣糧食補給並ニ傷病者還送ヲ實施致シ度行動豫定標識等追テ通報ス

昭和二〇・八・二六

0950

81

第千九百

緊急電報

昭和二十八年八月二十一日

日本帝國政府宛

聯合國最高司令官發

八月二十六日來電條文問合セニ關スル件

貴電第三五號ノ質疑ニ關シ

貴方代表ニ提出セラレタル諸文書中降伏文書ノ第六項“Supreme”

Commander最高司令官ハ單數ナリ

正確ニハ“Supreme Commander”ナリ 第六項“by and other”

ハ正確ニハ“by and other”ナリ

二一般命令第一號(陸海軍關係)中第三項(一)ニ貴

方ニ於テ引用セラレタル冒頭語ナシ

ニ第九項“to include”ノ前ニハ脱語ナシ

南島島ニ關スル八月二十三日附貴電第三二號受領セリ

(終)

0951



第三號

聯合國最高司令官發 日本大本營宛

合衆國艦隊ハ本二十六日相模灣ヘ向ケ移動中

日本大本營ハ要求事項第三號第五項ニ其ク安

全進入保障準備ヨナスベシ

昭和三十一年八月二十六日 受附



0952



軍事機密

聯合國最高指揮官發 大本營宛電報(第十一號)

第四號(八月三十一日一六二〇受)

元四五年八月三十一日マニラニ於テ貴代表ニ手文ヲ前文書ト
寫陸軍一般命令第一號第一項ノ實行ニ關シテ東京於
此日本武裝軍隊一般降伏ニ引續キ左記區分ニ依リ
特定地域ニ於ケル日本先任指揮官ノ複數ノ及全地上海
上航空並ニ補助部隊ハ太平洋合衆國陸軍司令官指
名代表者ニ降服セシメ度 即チ
マニラニ於テハマニラニ司令部有ル西太平洋合衆國
指揮官其ノ指定ニ付場所ニ於テ
琉球ニ於テハ沖繩ニ司令部有ル合衆國第十軍司令官

83

(裏)

0953

其ノ指定ニ可能ナル時ト場所於テ

三北緯三八度以南、朝鮮ニ於テ、現在沖繩ニ在ルモヤカテ朝鮮
鮮ニ移動スベキ司令部ヲ有ル合衆國ノ第三十四軍司令部ニ其
ノ指定ル時ト場所ニ於テ

以上ノ各地域ニ於テ日本先住指揮官、關係下上記指名
ノ指揮官ト一九四五年九月一日又、直後上掲ノ降伏ヲ先結スル
コトヲ規定スル準備命令ヲ最モ迅速ニ方法ニ依リ發シ度



0954

軍事極秘

505

聯合國最高指揮官發

大本營宛電報第四號八月

二十七日配布ノ分ヲ左記ノ通修正ス

記 (以下外務省正譯ニ依ル)

八月二十日馬尼刺ニ於テ日本代表ニ手交濟ノ陸海軍

對スル一般命令第一號第一項(一)規定ノ實施ニ方リ

東京ニ於ケル日本軍ノ一般降伏ヲ續キ一定地域ニ

在ル日本軍ノ先任軍司令官 (General Commanders)

及陸海空軍及補助部隊ハ太平洋方面米陸軍最

高司令官ノ指定スル代表ニ對シ左記ノ通正式ニ降伏

(裏へ)

昭利ニハニ七
八二六二六二六(十二課翻譯)
八二七(一五五)參電及付

0955

スル様要請セラル

(イ) 「フィリッピン」諸島ニ於テハ馬尼刺ニ司令部ヲ置ク西太平洋方面米陸軍最高司令官 (Communicating General) ニ對シ其ノ指定スル時ト場所ニ於テ實施スルコト

(ロ) 琉球諸島ニ於テハ沖繩ニ司令部ヲ置ク米陸軍第一軍最高司令官 (Commanding General) ニ對シ其ノ指定スル時ト場所ニ於テ實施スルコト

(ハ) 北緯三十八度以南ノ朝鮮ニ於テハ近ク司令部ヲ沖繩ヨリ朝鮮ニ移スベキ朝鮮方面米陸軍先任最高司令官 (米第二四軍團司令官) ニ對シ其ノ指定スル時ト場所ニ於テ實施スルコト

尚右各地域於ケル日本軍先任司令官ハ一九四五年
九月二日又其ノ直後於テ前記降伏ヲ了スル
爲必要ナルベキ準備 (Preliminary) 指令ヲ受
クル爲右ニ指定セラレタル各當該司令官ニ對シ最
モ急速ナル方法ヲ以テ連絡スルコトヲ要望ス

(終)

0957